

5. 注意すること

① 温度について

- 野菜くずだけでは、温度は上がりづらいようです。米ぬか、きな粉、肉、魚、砂糖分、使用済み天ぷら油(200cc程度)や天かすなど、カロリーの高いものを入れると、温度が上がりやすいようです。
- 寒い夜などは、段ボール箱を毛布でくるんだり、お湯の入ったペットボトルを入れるなどして、箱の中を保温するとよいでしょう。ただし、ビニールなど空気を遮断するものは使用しないでください。



② 臭いについて

- 通常は、ぬれた土の臭い、軽いカビ臭、畑の土の臭いで、生ごみの悪臭はそれほどないようです。
- 魚のはらわたやイカの内臓を多量に入れると、きつい臭いが出るようです。
- もみがらくん炭や木炭の粉、コーヒーかす、茶がら、ハーブ(ラベンダーなど)をふりかけると臭いが和らぐようです。

③ 虫の発生について

- 乾きすぎの状態が続くとダニが出やすいようです。
- 小さなハエやダニが出たときは、40℃以上に内部の温度を上げると、死滅するようです。
- 三角コーナーなどに2・3日置いた生ごみは、ハエが卵を産み付けていることがあります。生ごみは早めに投入した方がよいです。
- かき混ぜるときや、ふたをするときにハエが入らないように注意しましょう。
- ふたの裏側に防虫剤を貼っておくと、虫の発生防止として効果があるようです。

④ 留守にする場合

- 2・3日留守にする程度でしたら、問題ありません。暖かく、風とおしのよい場所に置いておきましょう。留守中に、白いカビが生えたり乾燥したりするので、帰ってきたらよく混ぜてください。
※白いカビは、好気性の微生物で、生ごみの分解に役立っています。そのまま混ぜ込んでください。

⑤ その他

- 段ボールの大きさに比べ、生ごみの量が少ないと温度が上がりづらいです。4人世帯で10kgのみかん箱程度が標準です。世帯数や発生する生ごみが少なければ、小さめのダンボールを利用したほうがよいでしょう。
- アレルギー体質の方は注意が必要です。体質に合わない場合は、無理に続けないほうがよいでしょう。
- 肥料として使う時は、出来上がった堆肥3：土7の割合で混ぜて使いましょう。

★困ったときのお問い合わせ先★

環境部廃棄物政策課ごみ減量係

<http://www.city.esahikawa.nagano.jp/kenryo/nam/nema-top.html>

☎ 2 5 - 6 3 2 4